（様式２）学園・学校評価市教委報告用

三鷹市教育委員会　様

７三鷹七中発第160号
令和8年2月24日

校長　　青木睦
（公印省略）

令和７年度　おおさわ学園　三鷹市立第七中学校　学園・学校評価報告書

標記の件について、下記のとおりご報告いたします。

記

学園評価　※学園内で統一記述	
※今年度、明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とする重点課題	※来年度の重点課題を解決するための改善方策
①「おおさぽ」支援者の増加 ②主体的・対話的で深い学びのある授業改善（学園研究） ③児童・生徒の実態把握の継続と対策（睡眠時間・食生活） ④学習に自信がない児童への対応 ⑤不登校対応 ⑥小・小、小・中交流の実施（小６プレ講座・小５中学校見学等） ⑦教員の働き方改革（タイムマネジメント・カスハラ・部活動）	①「おおさぽ」支援者の募集 ②学園研究の充実 ③睡眠時間・食生活の把握と対策 ④家庭学習の習慣化 ⑤別室指導員・巡回指導員の活用と学校風土の改善 ⑥小・小、小・中交流の実施 ⑦タイムマネジメント・カスハラ・部活動改善

学校評価　※学校ごとに記述	
※今年度、明らかになった課題（学校関係者評価を経て記述）	※来年度の改善方策（学校関係者評価を経て記述）
①英検等の支援者の増加 ②生徒の主体的な取り組み継続 ③生徒自身の主体的な学習意欲の結び付 ④生徒が相談しやすい環境（学校風土の改善） ⑤生徒の主体的な取り組みによる自己肯定感や自己有用感の醸成 ⑥基本的な生活習慣の定着 ⑦音楽交流・プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の継続 ⑧働き方改革の推進（タイムマネジメント・部活動地域移行化・カスハラ対応）	①PTAに英検等の支援者の依頼 ②行事における生徒の主体的な取り組み継続 ③各教科における生徒自身の主体的な学習意欲の結び付 ④QUや面談を利用した生徒が相談しやすい環境つくり（学校風土の改善） ⑤学級活動や委員会等による生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成 ⑥教科指導における基本的な生活習慣の定着 ⑦音楽交流・プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の継続 ⑧タイムマネジメント・部活動地域移行化・カスハラ対応の推進

		取組項目	今年度の重点目標	成果	課題	改善策	取組項目	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 所見	学校関係者評価
「人間力」「社会力」の育成	コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進	コミュニティ・スクールの運営	おおさぽ支援者の増加	①「おおさぽ」の周知度は上がってきた。 ②野球地域型クラブや天文クラブ、ジュニアバンドの活動が充実してきた。	①「おおさぽ」の人財が不足している。 ②保護者・地域に呼びかけ、保護者がかかわりやすい形を考えていく必要がある。	①人財は学校だけではなく社会全体で考える必要がある。かかわりやすい形を考えていく。 ②社会の変化にあわせ、保護者がかかわりやすい形を検討する。	コミュニティ・スクールの運営	ホームページや校務支援を活用した広報活動 部活動見守り隊の設置	保護者におおさぽを周知し、活用の推進を図る（各種検定や野球部・天文部） 部活動見守り隊の周知	地域部活動「野球部」「天文部」の運営周知 各種検等の周知 ホームページや校務支援・PTAのマチコミの有効活用	4	4	・「野球部・天文部」は85%、[各種検定・未来塾」は９０%の保護者が知っている。 ・ホームページや校務支援・PTAのマチコミの有効活用は行事ごとに更新できている。 ・部活動見守り隊により、教員の働き方改革が８５%の保護者が肯定的にとらえている。	・妥当・さらに地域と協働して子供達の教育活動を充実させてもらいたい。また、その様子を広報していく。・おおさぽの活動により、部活動の地域移行や見守り体制が着実に進んでいる。ホームページやマチコミを活用した情報発信は、保護者にとっても状況が分かりやすく安心感につながっていると考える。・こまめな情報発信により、保護者の方に学校の取り組みが周知できているのは、素晴らしいと思いました。認知度が上がっていることはとても良い傾向で素晴らしいです。・部活動の保護者見守りについて、保護者側は全部活動保護者には周知されていないのが現状あると思う。在り方の整備と教員と部活動保護者の共通理解が必要だと思う。・部活動のあり方の変更は、これまでに
		小・中一貫教育校としての教育活動	①基礎学力の向上 ②主体的・対話的で深い学びのある授業改善（学園研：自律学習の推進） ③STEAM教育の推進（学園研）	①学園研究で職員が意欲的に研究授業を行うことができた。小・中の教員が交流し、互いに学び合うことができたのは大きな成果である。 ②部活動の地域移行化	①学力の二極化 ②主体的・対話的で深い学びのある授業改善 ③さらなる部活動の地域移行化	①学習習慣の定着（四則計算ができない子ども）。 ②さらなる地域資源を活用し、主体的・対話的で深い学びの授業改善。 ③部活動は地域での受け皿を増やす。	小・中一貫教育校としての教育活動	・地域人財の有効活用 ・学園研究を通じた小中一貫教育の推進 ・生徒主体の授業や行事の取り組み	・地域人財の有効活用（部活動指導員の活用・地域部活動の推進等） ・主体的・対話的・深い学びの実践 ・生徒主体の授業や行事の取り組み	・部活動の地域移行化の推進（野球・天文・女子バスケ） ・学園研究を通して授業改善を図る ・体育祭や音楽祭について生徒主体の取り組みに改革する	4	4	・部活動地域移行化（おおさぽ野球・天文、地域部活女子バスケ）が進み、部活動指導員が休日指導に入っている。 ・８５%の保護者が「先生たちの働き方は進んでいる」と肯定的にとらえている。 ・評価研修を6月に実施。7月にQU研修を実施し授業の個別最適化を推進している。 ・体育祭は生徒主体の取り組みを増やし、競技数も昨年度より増えた。生徒の満足度も高い。 ・生徒の９８%、保護者の８５%が「学校行事は生徒たちが主体的に取り組んでいる。」と肯定的に評価している。	・妥当・生徒が主体になって考え行動する取組をさらに増やしていってもらいたい。・部活動指導員の活用により先生方の負担軽減が進んでいることは、教育の質の観点から心強く感じる。・学校行事を生徒が主体的に取り組んでいるのが、満足感に反映。・生徒の自主的主体的な活動を今後も活性化を願う。・「学校行事は生徒たちが主体的に取り組んでいる」に生徒98%・保護者85%が肯定的に評価は特筆に値する。学校の指導体制、方向性が明確であるからこその結果であると判断する。今後は、その実践を他の特別活動、そして授業への取り組みへと発展させられることを期待する。女子バスケは地域部活なんでしょうか？部活動地域移行化については、もう少し丁寧に進めて
	三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	（知）確かな学力	主体的に学ぶ児童・生徒の育成	①学園研究は教員が主体的に取り組むことができた。 ②児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動が進んだ。	①学園研究は教員が学びたい内容を取り組むことが必要である。 ②今後も児童生徒の実態把握と子ども中心とした実践活動を進める。	①研究主任が中心となった学園研究の推進 ②ふれあいQU等を活用した児童生徒の実態把握と子ども中心とした取り組みの推進	（知）確かな学力	・eライブラリの有効活用 ・基礎基本の定着 ・生徒主体の授業の展開	・eライブラリの有効活用のため校内で研修会を行い、有効活用をしていく ・基礎基本の定着のため繰り返し学習に取り組む ・生徒主体の授業改善	・eライブラリーの使い方をを校内で研修し各教科で使用し、基礎基本の定着を図る ・基礎基本の定着のため、小テストの実施、長期休業明けのコンテスト実施を図り、基礎基本の定着を図る。 ・授業観察による授業改善の実施	3	3	・eライブラリーの使い方を4月に校内で研修し、各教科で使用は徐々に増加。 ・基礎基本の定着のため、小テストの実施している。基礎基本の定着を図る。 ・授業アンケートでは「先生は発言や質問をしっかり聞き、ていねいに教えてくれるか」について９７%の生徒が肯定的に回答している。 ・管理職が学期１回以上の授業観察において全ての教員・講師について指導助言を行っている。	・妥当・個別最適な学びを増やすためにさらに研修を進めてもらいたい。・先生方が生徒の質問をしっかり聞き、きめ細かく指導してくださっていることは、生徒アンケートの結果からも伺え、大変感謝しています。・生徒が先生の教えだ方に肯定的に回答していたのは、先生方の努力が現れていると思いました。・eライブラリーの活用はまだまだ浸透していないと感じる。学力低下生徒に対してはどのような対応・対策をされているのか知りたい。・授業アンケートの肯定評価97%が示すように、教師側の様々努力は十分に伝わってくる。今後はそれを如何に生徒自身の主体的な学習意欲に結び付けるかが課題になると考える。eライブラリー等の取り組みは一朝一夕には結果は出ない
		（徳）豊かな心	児童・生徒の自己有用感・自己肯定感の醸成	①児童生徒の実態把握は進んだ ②子どもが主体的に取り組む活動が増えた ③学級経営の改善は進んだ ④新規の不登校者が減った。 ⑤サポートルームの利用者増、学級にもどる生徒も出てきた。	①実態把握を継続することで課題を把握する ②「自己肯定感」「自己有用感」は高まってきているが、その反面で学習に自信がもてない児童・生徒や不登校傾向の児童・生徒もいる。	①ふれあいアンケートやQUの有効活用 ②補習授業の継続・サポートルームの有効活用	（徳）豊かな心	・自己肯定感や自己有用感の育成 ・非認知能力の育成（行事や授業で主体的な取り組みをさせる）	・自己肯定感や自己有用感の育成のため、校内・学年・学級内での委員会・係活動の取り組み ・非認知能力の育成（忍耐力、自制心、回復力、意欲、自信、コミュニケーション力、共感、協調性、社交性等の育成）	・自己肯定感や自己有用感の育成のため、校内・学年・学級内での委員会・係活動の取り組みを充実させる ・非認知能力の育成を図ることにより、人間力・社会力を高めている。 ・QUを活用した学級経営力の向上 ・配慮を要する生徒の理解啓発（QU研修）　・生徒の意見聴取	4	3	・自己肯定感や自己有用感の育成のため、校内・学年・学級内での委員会・係活動の取り組みを充実させる。・三鷹市調査「授業や行事などで、自分の意見を伝えたり、自分で選んで決定したりする機会が充実していると感じる。」について８９%の生徒が肯定的にとらえている。 ・学級活動や行事、ボランティア等で非認知能力の育成を図ることにより、人間力・社会力を高めている。・三鷹市調査「学校や学級は、安心して授業や学校生活が送れる場所だと感じる。」８８%の生徒が肯定的にとらえている。・CSアンケートにおいて「行事・委員会・係などでは自分たちで取り組んでいますか」に対して９８%の生徒が肯定的にとらえている。	・妥当・不登校の子どもに対して、学校内外で支援していただいていることに感謝している。・自己肯定感や自己有用感の育成のため、校内・学年・学級内での委員会・係活動の取り組みを充実させる。・非認知能力の育成を図ることにより、人間力・社会力を高めている。・三鷹市調査「学校や学級は、安心して授業や学校生活が送れる場所だと感じる。」ことができていない対策を図っていけると良い。ボランティア活動への参加は素晴らしい。・地域の特性を生かした特別活動（地域行事等）に対して、ボランティア活動の一環として積極的に参加出来る姿勢は、今後
		（体）健康・体力	体力の向上や睡眠時間及び食生活の改善	①熱中症対策は大きな事故を防止することができた。ある程度定着したため課題から外す。 ②睡眠時間の提起ができた。	①睡眠時間の確保や朝食の摂取といった生活習慣の改善を必要とする生徒が多々いる。	①生活習慣の改善については、引き続き学園便り、学校便り、保健便り等で啓発していく。	（体）健康・体力	・熱中症防止対策のため、帽子の着用・日焼け止め・生活管理表の取り組み ・基本的な生活習慣について、家庭への啓発や生活管理表をつけさせる。	・熱中症防止対策のため、帽子の着用・日焼け止め・夏季休業中に生活管理表の取り組む ・基本的な生活習慣の家庭への啓発や生活管理表の活用	・熱中症防止対策のため、５月から帽子の着用・日焼け止め（講演会）・夏季休業中に生活管理表の取り組む ・基本的な生活習慣の家庭への啓発や夏季休業中に生活管理表の活用 ・助産師による命の教育、がん教育、薬物乱用防止教室の実施	4	4	・熱中症防止対策のため、帽子の着用・日焼け止めに取り組み熱中症を起こす生徒が減少。 ・７月からの体育着登校、ドリンク用の粉の持参許可をしている。 ・基本的な生活習慣の家庭への啓発や夏季休業中に生活管理表の活用を進める。 ・助産師による命の教育、がん教育、薬物乱用防止教室のが３月に実施予定。・遅刻者が減少している。 ・CSアンケート「睡眠時間を取っているか」７５%の生徒が肯定的にとらえている。	・妥当・環境の変化が速まり、迅速に柔軟に対応していってもらいたい。・酷暑が続く中、帽子の着用や日焼け止め、ドリンク用の粉の使用許可など、学校として迅速かつ柔軟に熱中症対策を講じられたことで、大きな事故なく過ごせていることに感謝・睡眠時間問題提起は、生徒たちの自助努力を促すための効果的。ジャージ登校の期間を設けたことと期間を延長したことは非常に良かった。様々な熱中症対策の取り組みは大変素晴らしい。睡眠時間の確保は各家庭（保護者）とも連携をとって睡眠の確保につなげていけると良いと思う。体力の向上のためにも、マラソン大会は継続していってほしい。・昨今の猛暑は、「学校で我慢を学ぶ」という従来の教育の方向性では対応できるもの
	特色ある教育活動（その他）		小・小及び小・中の活動の充実と児童・生徒会の活性化	・生徒の実態把握（ふれあい月間・学園評価・QUによる生徒の把握） ・児童・生徒会の実施（生活のきまり・デジタルシティズンシップ等の熟議） ・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の取り組み）	①児童生徒の実態把握の継続 ②音楽交流・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の取り組み）など小中交流を通して小中の活性化を図る。	①児童生徒の実態把握の継続 ②音楽交流・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の取り組み）など小中の交流を今後も継続する。	特色ある教育活動	・小中の連携強化	・生徒の実態把握 ・児童・生徒会の実施 ・小中の連携行事	・生徒の実態把握（ふれあい月間・学園評価・QUによる生徒の把握） ・児童・生徒会の実施（生活のきまり・デジタルシティズンシップ等の熟議） ・小中の連携行事（プレ講座（6年生）・中学校見学（５年生）の取り組み）	4	4	・6月に生徒の実態把握（ふれあい３回・授業評価２回・QU２回）により生徒指導を行っている。 ・7月から児童・生徒会の実施（生活のきまり・デジタルシティズンシップ等の熟議）している。 ・2学期以降にプレ講座（6年生）実施・ふれあい音楽交流（１１月）実施 ・新規中学校交流（５年生）を２月実施 ・１月にCS生徒会熟議実施	・妥当・中一貫教育の土台として、小・中それぞれの行事のない、継続した取組を推進していって欲しい。・コロナ禍で制限されていた様々な体験活動が、今後さらに充実していくことに期待し、地域としても協力していきたい。部活動で小中の交流を図っていけると中への進学率向上が図られる。・地域の特色・特性を生かした活動は、直ぐには大きな結果は出ないが必ず基礎力を固める要素になる。これまでの取り組みを継続することが何よりも大切であると判断する。・中学生となると考えるのは大人とさほど違いはない。全ての学校の施策について「何のために」ということを丁寧に説明することが肝要であると考える。・小学生にセ中生の姿を見せる機会を増やしているのは良いと思い
喫緊の課題	学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	働き方改革	教員のタイムマネジメント意識改善	①ICT機器の有効活用は進んだ ②各種会議のペーパーレス化は進んだ ③部活動改革はある程度進んだ	①教員のタイムマネジメントの意識向上 ②部活動の地域移行化 ③カスハラ対応	①自己申告等を活用して、教員各自がタイムスケジュールを作成・実行する中で、成果を共有し改善する。②部活動は地域での受け皿を増やしていく。 ③カスタマーハラスメントを保護者・地域に周知し理解を深めていく。	働き方改革	・ICT機器の有効活用 ・各種会議のペーパーレス化 ・部活動改革（時程の変更と週３日間の部活動）	・ICT機器の有効活用 ・各種会議のペーパーレス化 ・部活動改革	・連絡事項は校務支援やチームスを有効活用する。 ・各種会議のペーパーレス化 ・月・水曜日は部活動を原則中止し、部活は週3日以内（強化部最大4日）	4	4	・連絡事項は校務支援やチームスを有効活用している。 ・各種会議のペーパーレス化が進んだが、データの保存場所を探す手間が増えた。 ・月曜日・水曜日は部活動を原則中止し、委員会や係会に充てることにより教員の退勤時間が早くなった。（CSアンケートで「先生は悩みや問題にていねいに聞てくれますか」について８８%の生徒が肯定的にとらえている。さらに生徒の遅刻が減少、三鷹市調査より「登校時刻を守っている」R6:91.3%からR7:96.3%に向上している。）	・妥当・学校教育の質の向上にむけて、今後の教育活動にゆとりを持って取り組んでいって欲しい。・部活動の見直しについては当初懸念もあったが、アンケート結果に成果が出ていると感じる。・登校時間を守る、丁寧に質問に答えるなどは、いずれも安心な学校生活の為に、必須だと思いました。・部活動の活動日程の変更は、大きな改革であるが故に様々な困難があったであろうが、敢えて断行したこと、そしてその結果生徒・教師に時間的な余裕だけでなく、心のゆとりが生まれたことは大きい。今後様々な場面でより良い波及効果が生まれると判断する。・それでも教師の就労時間は長い。ゆとりが大きな教育力に結び付くということを、引き続き保護者・地域に理解されるために、メ